	694	藤原京に遷都
	701 （大宝 1）	**大宝律令制定**、日本最古の医事制度（医疾令）が決められた。大学・国学のほか、典薬寮など設置
	710	平城京に遷都（元明(げんめい)天皇）
	723	興福寺内に施薬院、悲田院
	730	聖武天皇、皇后宮職に施薬院設置
		★天平 2 年（730 年）、光明皇后の発願により、悲田院とともに創設
	735	天然痘流行（737 年にも流行）
	752	東大寺大仏開眼供養
	753（天平勝宝 5）	唐僧**鑑真**が来日、医術をよくし薬物鑑別に精通し、これを諸生に教授した。
奈　良 （～794）	756（天平勝宝 8）	光明皇太后が聖武天皇の忌日に、天皇御愛用の御物とともに、 ☆**薬品 60 種を奈良東大寺に奉納し、正倉院御庫に収蔵された**。 **（正倉院薬物）**
	794	**平安京に遷都**（桓武(かんむ)天皇）
	808(大同 3)	安部真直、出雲広貞ら「大同類聚方」100 巻を著した。今の伝本は偽撰という。
	810(弘仁 1)	弘仁年中から宮中で元旦に屠蘇酒を用いることが行われた。
	839	典薬寮に御薬園設置
	918	日本最古の本草辞典、深根輔仁の「本草和名」成る（唐の「新修本草」による）
	921	深根輔仁の「養生秘抄」成る
	927（延長 5）	「延喜式」ができた。その典薬寮の項に「諸国の進年料の雑薬」があり、全国七道 54 ヵ国から年々進貢した薬品名と数量が記載されている。
平安 （794～1185）	982（天元 5）	**丹波康頼が「医心方」30 巻を著す。現存医書最古のもの。隋・唐の医薬書を広く引用編述、平安時代の代表的医書。**
	1107(嘉承 2)	宋の大観年中、陳師文らが「太平恵民和剤局方」10 巻を著す。
	1165	勝賢「香薬抄」（香部と薬部）を手写。
	1167	平清盛、太政大臣になる。
	1168	栄にし、宋から帰国。
	1180	**平重衡、南都焼きうち。**
	1264	**忍性、極楽寺に施薬院などを設立。このころ、大和の寺院では薬としての茶の栽培が広まる。**

わが国の薬の歴史(3～12)　(2)-1 大和時代編

メソポタミヤで文明が開かれて、5000 年の時が流れ、その間に「ガレン（130～201）が薬に適量のあること（至適量）」を教えて、「“テリアカ（解毒薬）”が治療薬」として使われ、かなり高度な医療が行なわれていた（第 3 回報）。そのころ、わが国にはまだ文明の灯が灯っておらず、全くどんな世界であったのかも分からない。わずかに、古代中国の文献に現れた文字から類推するしか出来ない。このような中で、「くすり文化」については、第 1 回報で「くすりはいつごろから世に現れたか」をテーマにあれこれ考察し、「6 世紀頃」と推察できた。実際、日本では薬物に関係のある記録は **6 世紀の頃まで極めて少なく**、ほとんど分かっていないが、大陸と人や物の交流が盛んになった[**大和時代(4 世紀半ば～600 頃)**]の頃から、